

九重山の火山活動解説資料（平成 29 年 3 月）

福岡管区气象台

地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められませんが、GNSS¹⁾ 連続観測によると、一部の基線で伸びの傾向が認められますので、今後の火山活動の推移に留意してください。
噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 3 月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図 1、図 2、図 3-①③）

硫黄山付近で噴煙が最高で噴気孔上 300m まで上がりました。また、赤外熱映像装置²⁾ による観測では、熱異常域の分布や最高温度に特段の変化は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図 3-②④、図 4）

火山性地震の月回数は 14 回（2 月：4 回）と少ない状態で経過しました。このうち震源が求まった地震は 7 個で、主に硫黄山付近のごく浅いところから海拔下約 2 km と三俣山西側の海拔 0 km 付近に分布しました。

火山性微動は 2006 年 10 月以降、観測されていません。

・地殻変動の状況（図 5、図 6）

GNSS 連続観測では、坊ガツルー牧ノ戸峠、星生山北山腹一坊ガツル、星生山北山腹一直入 A の基線で、2012 年頃から伸びの傾向が認められます。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。
2) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 29 年 4 月分）は平成 29 年 5 月 11 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び大分県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。



図1 九重山 噴煙の状況（3月3日、上野監視カメラによる）

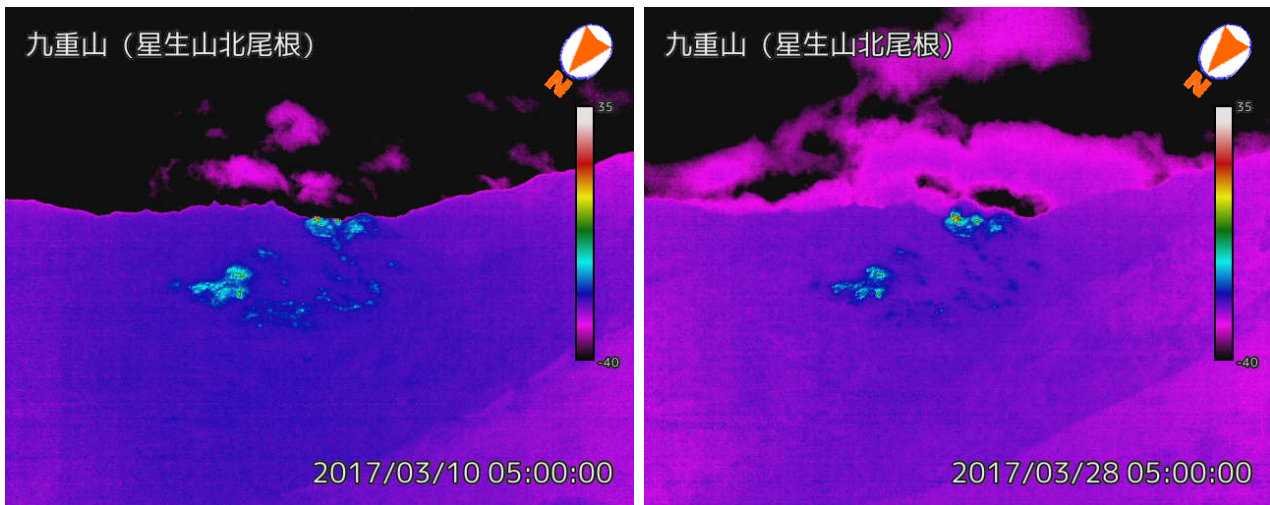


図2 九重山 赤外熱映像装置による地表面温度分布
（左：3月10日 右：3月28日、星生山北尾根監視カメラによる）
熱異常域の分布や最高温度に特段の変化は認められませんでした。

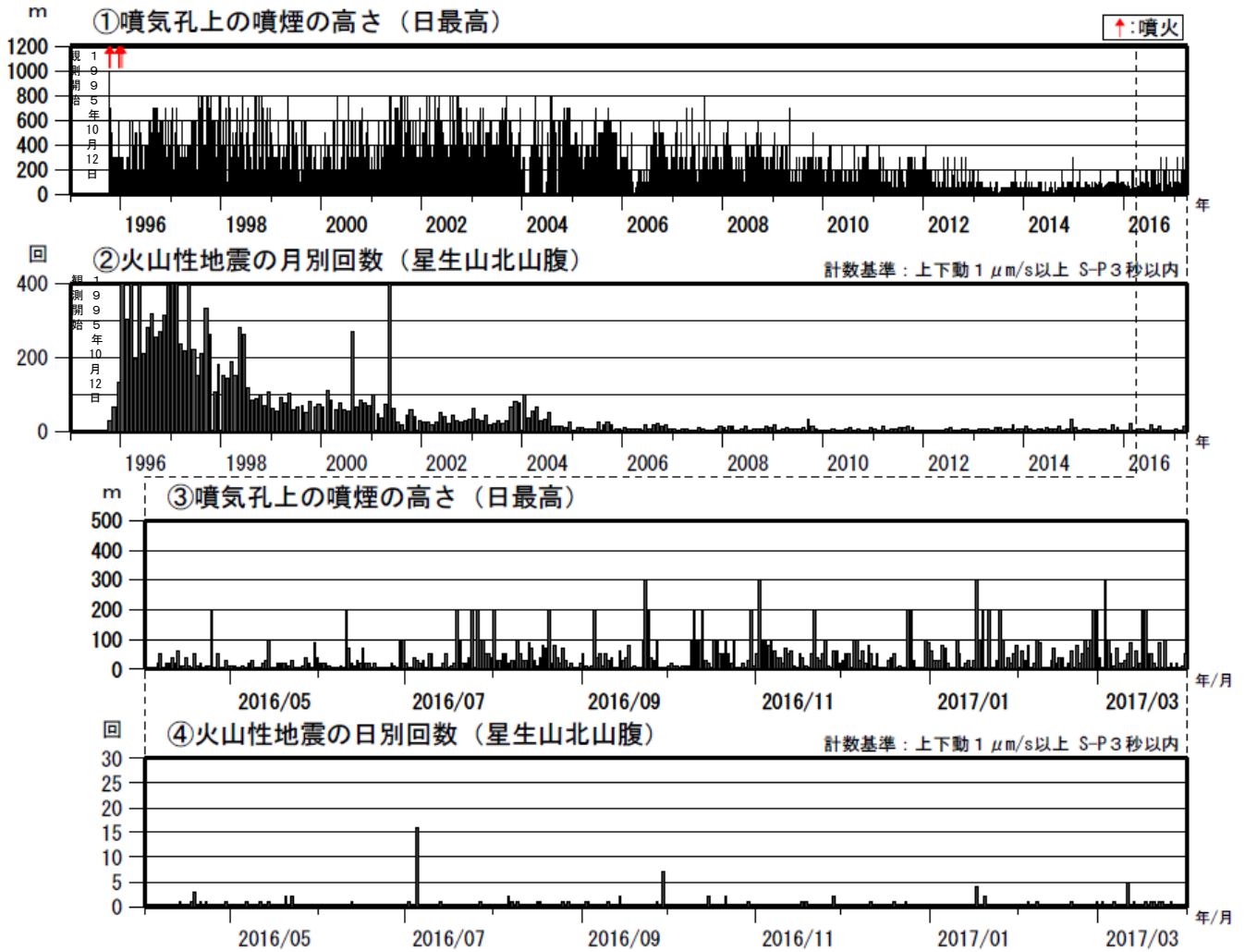


図3 九重山 火山活動経過図（1995年10月～2017年3月）

< 3月の状況 >

- ・硫黄山付近で噴煙が最高で噴気孔上 300mまで上がりました。
- ・火山性地震の月回数は14回（2月：4回）と少ない状態で経過しました。

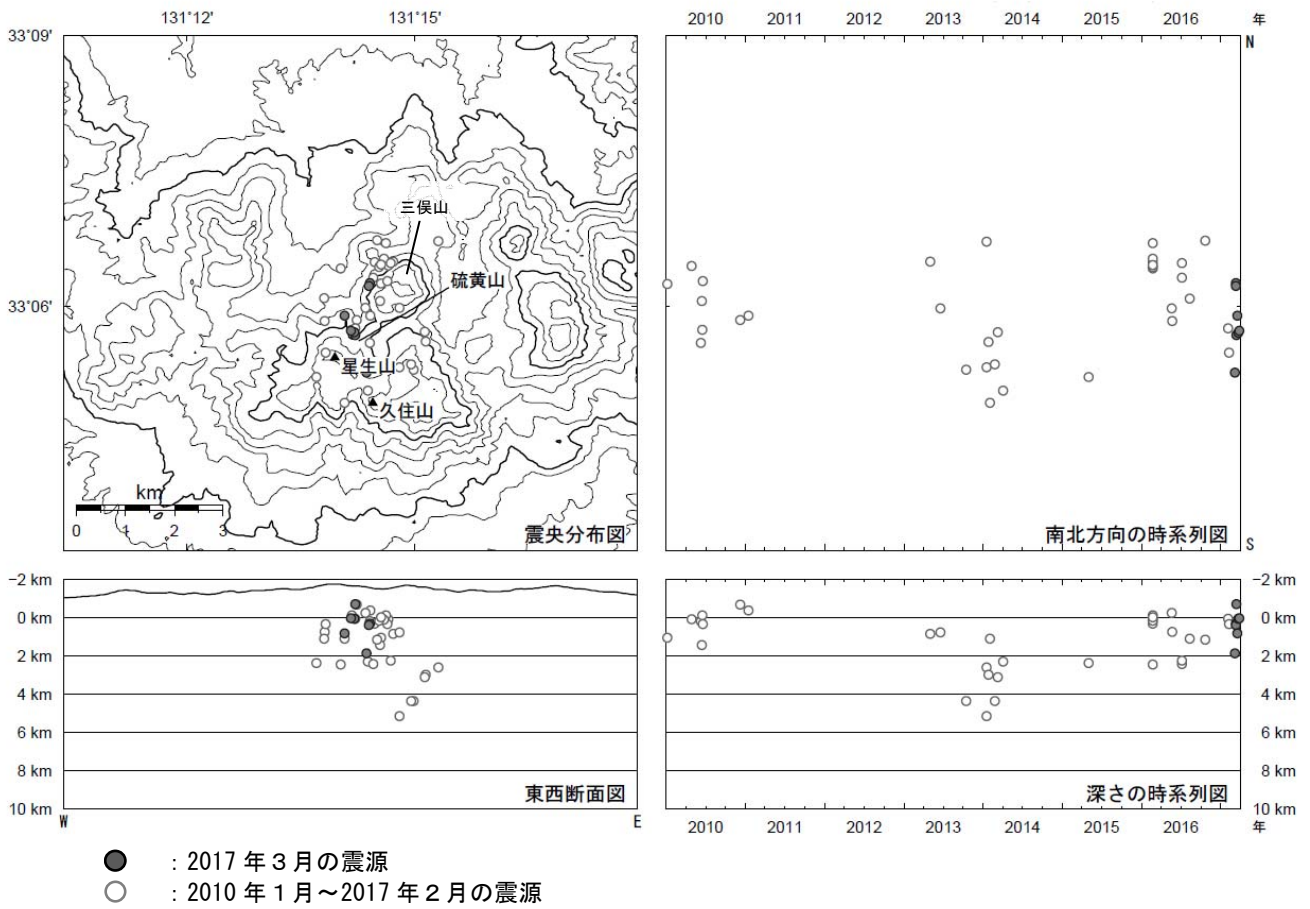


図 4 九重山 震源分布図（2010 年 1 月～2017 年 3 月）

< 3 月の状況 >

震源は、主に硫黄山付近のごく浅いところから海拔下約 2 km と三俣山西側の海拔 0 km 付近に分布しました。

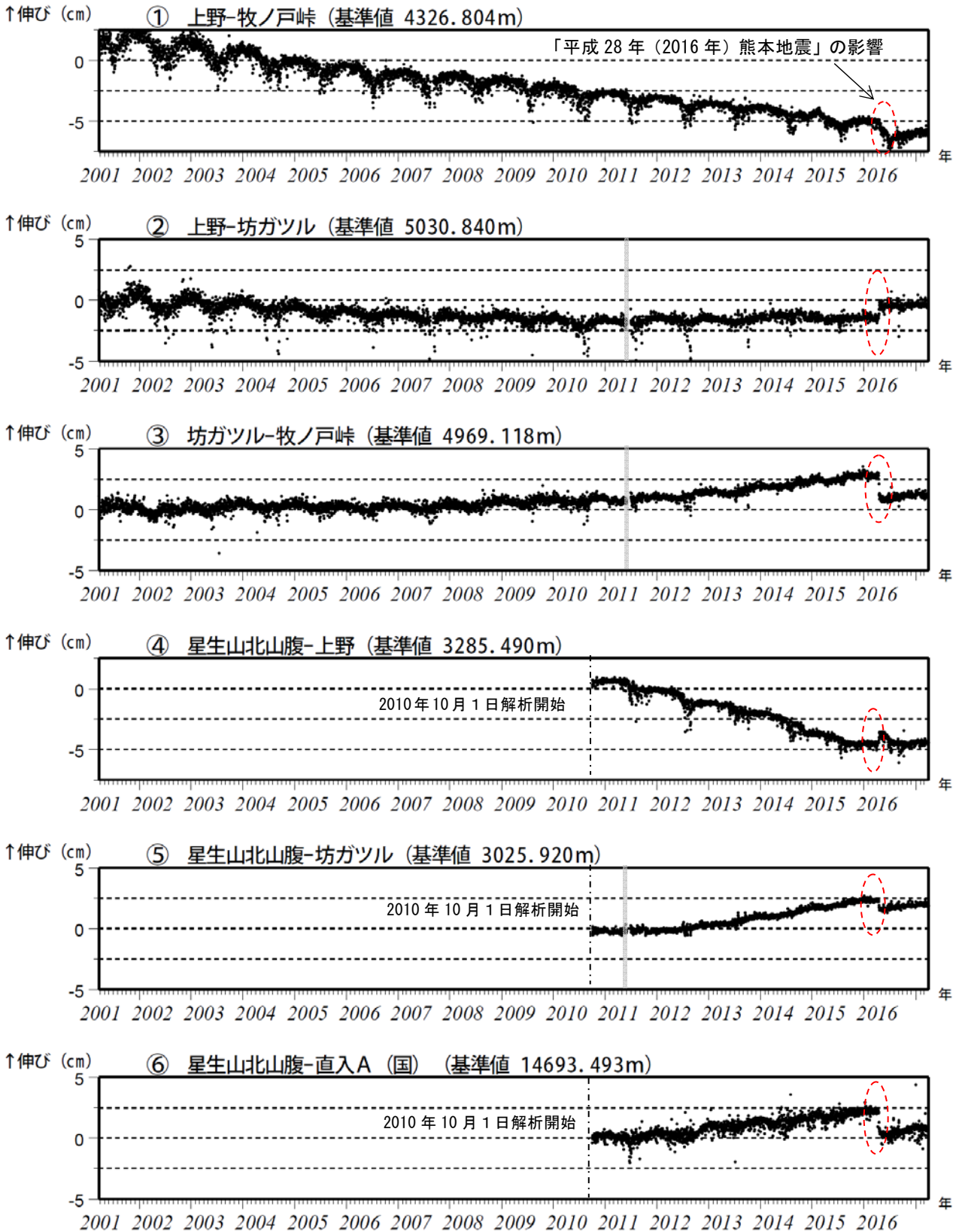


図 5 九重山 GNSS 連続観測による基線長変化 (2001 年 3 月～2017 年 3 月)

GNSS連続観測では、③坊ガツル-牧ノ戸峠、⑤星生山北山腹-坊ガツル、⑥星生山北山腹-直入Aの基線で、2012 年頃から伸びの傾向が認められます。

これらの基線は図 6 の①～⑥に対応しています。

2010 年 10 月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。

灰色部分は機器障害のため欠測を示しています。

(国)：国土地理院

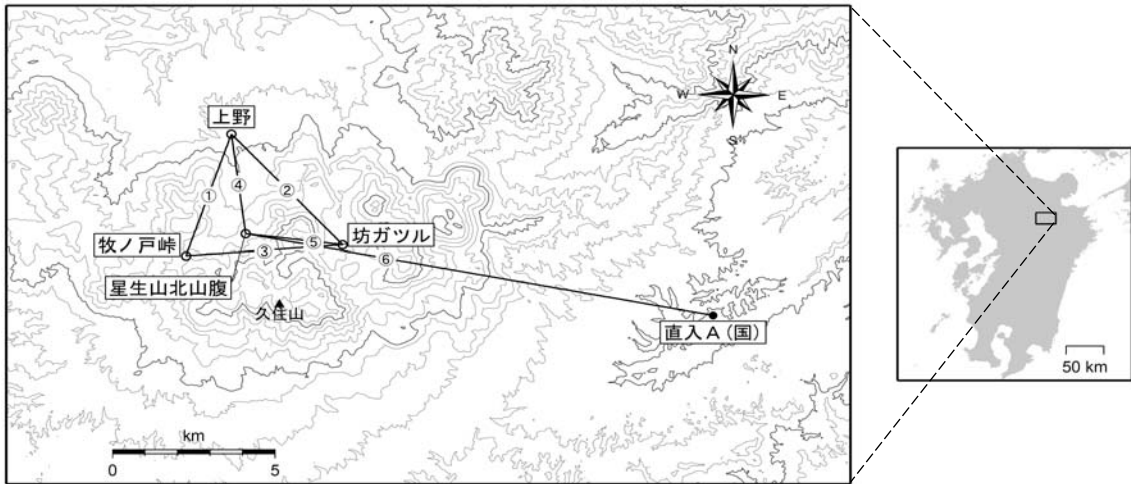


図 6 九重山 GNSS 連続観測点と基線番号

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国)：国土地理院

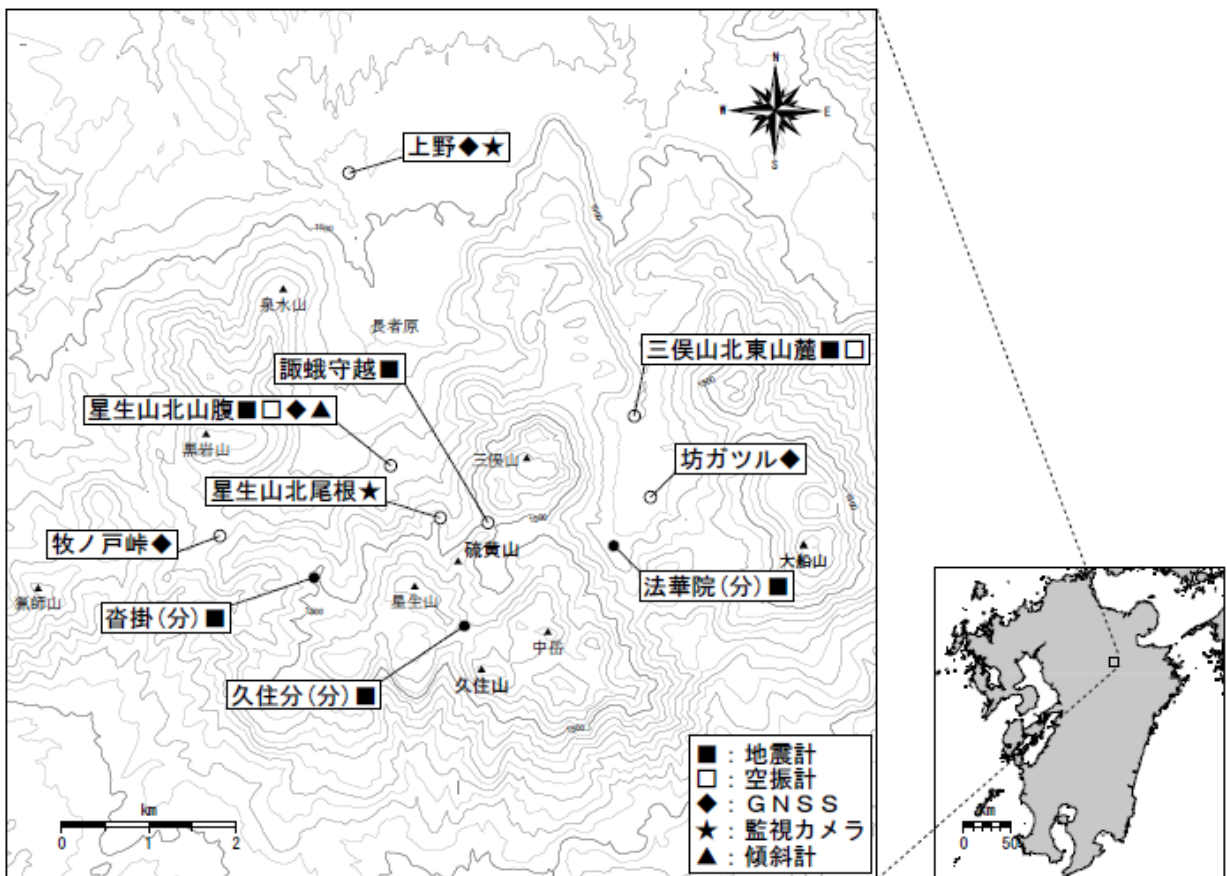


図 7 九重山 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(分)：大分県